2025年度 市大生チャレンジ事業

面で伝える里神楽の歴史と魅力

メンバー　濱本拓海（代表者）田中登偉　原幸生　西村優輝　大槻拓真　東拓光
担当教員　青木伸介
協力団体　ワンチーム・れきし紙芝居

目的

昔から使われてきた神楽面の復元と広島神楽の歴史を知ってもらい、広島神楽の発展と継承に繋げることを目的としている。

取組み

学生主体で参考書籍や有識者の意見を基に神楽の歴史への知見を深めつつ、団への訪問や地域団体との連携を通してのコミュニティの強化や広島神楽が時代の変化によって必要とされる保存・発展形態の模索として絵画や面の復元制作を行なった。中間発表では、魅力を多くの方々に知っていただくため、本大学の大学祭で研究発表後に公演の場を設けた。

活動記録

7月

ワンチーム・れきし紙芝居の山上さんと県教育員会の小原さん（写真右側）をお招きし、神楽のルーツから広島県に分布する神楽団（芸北神楽、安芸十二神祇、芸予諸島、備後）等についてお話していただいた。

8月

広域十二神祇神楽連絡協議会の下前さんをお招きし、広島に古くから団を置く山根神楽団と梶矢神楽団の詳細についてのお話や現存する面の写真を見せていただいた。この段階から今後の目標を明確化するに至った。

10月

広島県無形文化財に指定された「剣舞」など、古くからの伝統を守って活動されている山根神楽団さんにお伺いし、団の歴史や信念、抱えている問題といった内容についてお話していただいた後、実際に演目の練習に立ち合わせていただいた。

研究発表会

大学祭ではこれまでの研究調査の中間報告という形で発表と油絵と面の展示も開催した。発表後には、広島の八幡神社を拠点として活動されている高井神楽団の方々に出張公演を披露していただいた。

11月

山根神楽団による演目「八岐大蛇」公演鑑賞。団員不足がネックの神楽公演においてこれは貴重な機会であり、八岐が折り重なる様は圧巻の一言につきる。ぜひともこの演目の迫力を堪能していただきたい。

12月

高井神楽団による年神楽公演鑑賞。太刀納めとは、それぞれの神楽団が年内最後に行う神楽公演。普段の公演では、めったに観ることのできない演目まで鑑賞させていただいた。団の演者達は1年の集大成として熱心に取り組む一方、時折観客の方々との交流の機会もあり、演者、鑑賞者共々お祭り気分で楽しむことのできる活気のある催しとなっていた。

2月

広島県安芸高田市に位置する神楽門前湯治村に調査・鑑賞のため赴いた。神楽ドームやかむくら座といった専用施設、神楽資料館や絵付け体験などの歴史と文化にも触れることができた。今回は梶矢神楽団による源頼政と八岐大蛇の２演目を鑑賞。

結果・課題

神楽への理解をより深めることで、メンバーのなかでも神楽に対して興味や関心を持つようになった。メンバーの数人は、以前よりも神楽公演に赴く回数が増えたという。また、目標の一つである多くの方々に広島神楽を広く認識してもらう点では、大学祭で公演の場を設けたり、油絵による絵画表現や面の復元見本の展示をしたりと、多くの方に広島神楽を知ってもらう機会を設けることができた。そして、共通の目標達成に取り組むなかでチームの結束力を高めることにも成功し、メンバー間での相互理解を深めることで役割分担を円滑に進め、作業の効率化にも繋げることができた。 一方、今回残った課題として、神楽の歴史を探究するには、私達の力のみでは困難であったという点がある。そこには有識者の方に助言や演目鑑賞に赴くことが理解の深化につながる一歩であると考える。認知度の観点では上記の絵画的表現や調査動画などの広告面を強化する必要がある。発信する内容もそれぞれの団が抱える信念を色濃く反映することで、差別化や理解も得ることができるであろう。